

**Makita**

# 溶接機 & 発電機

**W140**

**W141**

## 取扱説明書

- ・ご使用前に、よくお読み下さい。
- ・溶接機／発電機を使用する時は、この取扱説明書を常に携帯して下さい。

【必ずお読み下さい】

# はじめに

このたびは、マキタ溶接／発電機をお買い上げいただきましてありがとうございます。  
ます。

本書は、マキタ溶接／発電機をいつまでも安全にご使用いただくための正しい取扱い方法と簡単な保守点検について記載しています。

●ご使用前に、この取扱説明書をよくお読み下さい。

特に、4～8ページの「安全にお使いいただくために」の章に記載した事項および本文中の **▲危険**， **▲警告**， **▲注意** の見出しの付いた事項については、安全確保のために非常に重要な内容です。必ずよくお読み下さい。

●この取扱説明書は、お読みになった後も大切に保管して下さい。

万一、ご使用中にわからないことや不都合が生じた場合は、取り出して確認して下さい。

●この取扱説明書は製品の一部です。お客様がこの溶接／発電機を他のお客様に譲り渡す場合は、この取扱説明書も同時にお渡し下さい。

●ご不明な点や不都合なところがありましたら、お早めにお買い上げの販売店にご相談、またはお申し付け下さい。

●保証書はよくお読みいただき、裏面の販売店名、捺印を確認の上、大切に保管して下さい。

●仕様変更などにより、この取扱説明書に記載の文章・イラストが実機と一部異なることがありますので、あらかじめご了承下さい。

# はじめに

- この取扱説明書には、使用に際しての重要な事項を「**▲危険**」「**▲警告**」「**▲注意**」「**要 点**」の見出しをつけて記載してあります。これらの見出し付きで記載された事項は、次のような意味を持ちます。


**▲危険** : 「この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

**▲警告** : 「この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

**▲注意** : 「この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する可能性が想定される内容」を示しています。

**要 点** : 操作、保守点検をするときの一般的な注意事項で、製品自体のみの損害(自損)を防ぐための注意事項も含まれます。

ここで「**▲注意**」として記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性もあります。いずれの場合も安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守って下さい。

- この取扱説明書中で  マークの付いたイラストは「その行為の禁止」を示しています。

# もくじ

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 安全にご使用いただくために〔必ずお読み下さい。〕        | 4  |
| 各部の名称                           | 9  |
| 各部の取扱い                          | 11 |
| チョークノブ                          | 11 |
| エンジンスイッチ                        | 11 |
| 始動ボタン<W141のみ>                   | 11 |
| パイロットランプ                        | 12 |
| オイル警告灯                          | 12 |
| 交流スイッチ(ブレーカー)                   | 12 |
| 溶接/交流切替スイッチ                     | 12 |
| 電流調整ノブ                          | 13 |
| 周波数切替レバー                        | 13 |
| 溶接出力端子                          | 14 |
| 交流コンセント                         | 14 |
| オートアイドルスイッチ                     | 14 |
| フューエルコック                        | 15 |
| リコイルスターター&リコイルスターターグリップ<W140のみ> | 15 |
| ホイールストッパー                       | 15 |
| 運転前の点検(日常点検)                    | 16 |
| 燃料                              | 16 |
| エンジンオイル                         | 18 |
| バッテリー<W141のみ>                   | 19 |
| エアークリーナー                        | 21 |
| リコイルスターター/エア-吸入口                | 21 |
| 全体的なチェック                        | 21 |
| 溶接作業用の器材・防具                     | 22 |
| 溶接ケーブルの選択                       | 22 |
| 設置のしかた                          | 23 |
| 設置場所                            | 23 |

# もくじ

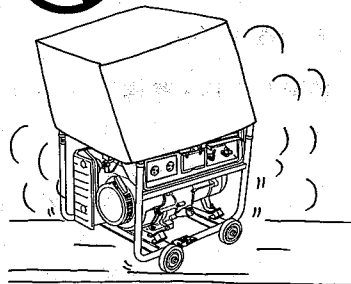
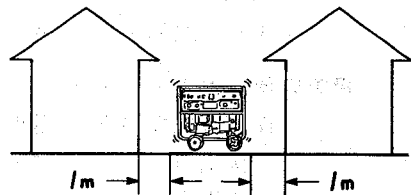
|               |    |
|---------------|----|
| 始動のしかた        | 24 |
| 溶接ケーブルの接続     | 24 |
| 始動の手順         | 25 |
| ならし運転         | 28 |
| 電気の使いかた       | 29 |
| 使用可能な出力の範囲    | 29 |
| 溶接出力          | 30 |
| 交流出力          | 31 |
| オートアイドル       | 32 |
| 周波数の切替え       | 32 |
| 停止のしかた        | 33 |
| 定期点検          | 34 |
| 簡単な点検・整備      | 35 |
| スパークプラグ       | 35 |
| エンジンオイル       | 36 |
| フューエルタンクフィルター | 38 |
| フューエルストレーナー   | 38 |
| フューエルホース      | 39 |
| エアークリーナー      | 40 |
| ボルト&ナット       | 41 |
| 運搬のしかた        | 42 |
| 長期格納とその後の再使用  | 44 |
| 長期格納          | 44 |
| 長期格納後の再使用     | 46 |
| 不定期に使用する場合    | 47 |
| 諸元表           | 48 |
| 配線図           | 49 |

# 安全にご使用いただくために

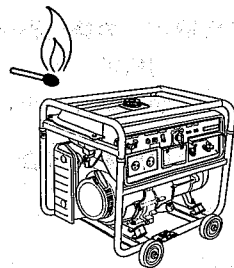
溶接／発電機のご使用前に、この章に記載の事項および本文中の **▲危険**、**▲警告**、**▲注意** の見出しの付いた事項をよく読んで理解し、必ずお守り下さい。

《火災を防止するために》

- 溶接／発電機を使用する場合は、建物およびその他の設備から1m以上離して下さい。
- 溶接／発電機を使用する前に、その周囲にある燃えやすいもの（枯れ草・落葉・木くず・紙くず・わらくずなど）、危険物（油脂類、シンナー、火薬など）は取り除き、近くに置かないようにして下さい  
溶接作業場所の周囲についても、同様の注意を払って下さい。
- 溶接／発電機を箱・カバーなどで囲った状態で使用しないで下さい。
- 溶接／発電機の使用中には、傾けたり、移動をしないで下さい。



- 燃料のガソリンは非常に気化、引火しやすい液体です。ガソリン給油時および取扱い時には次のことを厳守して下さい。
  - タバコの火・たき火などの火気およびスパークは近づけないこと。
  - ガソリン給油時には、エンジンを停止させ、水平な場所で行うこと。
  - 換気のよい所で行うこと。
  - ガソリンをこぼさないよう注意すること。万一、こぼれた場合には、完全に拭き取り、乾かしてから始動すること。



【必ずお読み下さい】

# 安全にご使用いただくために

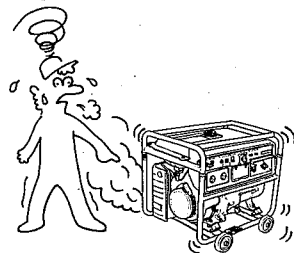
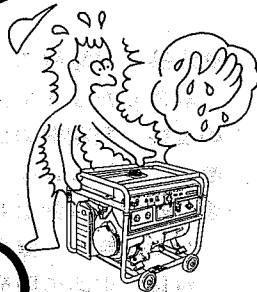
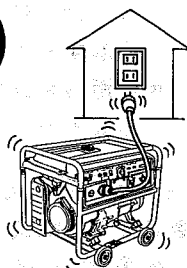
- 電力会社からの電気配線や屋内配線には、溶接／発電機を接続させないで下さい。
- 他の電源から電力の供給を受けているコンセントには、溶接／発電機を接続させないで下さい。
- 定格出力以上の過負荷運転はしないで下さい。

## 《感電事故を防止するために》

- 雨中、雪中で使用しないで下さい。
- 運転中は、溶接出力端子に触れないで下さい。
- 運転中に、ぬれた手で溶接／発電機・電気器具およびコード線に触れないで下さい。
- 水をかけて洗わないで下さい。
- 運転中に、スパークプラグ・高圧コードには触れないで下さい。
- コンセントに針金などの異物を入れしないで下さい。
- 溶接作業を行う場合は、溶接防具（防護マスク、皮手袋、作業安全ぐつなど）を必ず身に付けて下さい。

## 《排気ガス中毒を防止するために》

- 排気ガス中には無色無臭の有害な一酸化炭素などが含まれています。また溶接時に発生するヒュームガス中にも有害な成分が含まれていますので、次のことを厳守して下さい。
- 屋内では使用しないこと。
- 室内・倉庫・トンネル・井戸・船倉・タンク内などや建物・遮へい物で囲まれていて換気の悪い場所では使用しないこと。

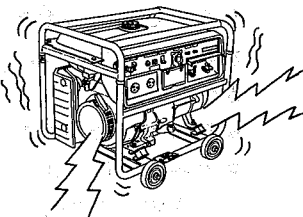
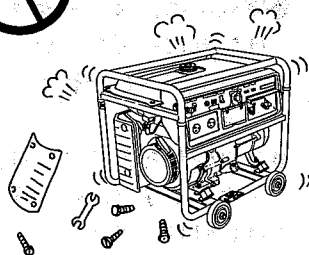


# 安全にご使用いただくために

- エンジンの排気口は、風通しの良い場所に向け排気ガスがたまらないよう換気に注意すること。
- 使用者自身のほか、周囲の人間や動物にも注意を払うこと。

## 《その他一般的な注意項目》

- 溶接／発電機・電気器具コード線および作業場所には子供や動物を近づけないで下さい。
- 溶接／発電機の使用・保守点検・給油作業などは子供にさせないで下さい。
- 溶接／発電機は水平で地盤のしっかりした所に置いて使用して下さい。
- 溶接／発電機のホイール（車輪）には、確実な車輪止めを行って下さい。
- 溶接／発電機の上には物をのせないで下さい。
- 回転部に針金などの異物を入れないで下さい。
- 溶接／発電機のカバー類などの構成部品を取外したままで使用しないで下さい。
- 溶接／発電機の改造はしないで下さい。
- 日常点検および定期点検を実施して下さい。
- 運転中に異常な音・振動・臭いなどが発生した場合は、直ちにエンジンを停止させ、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼して下さい。





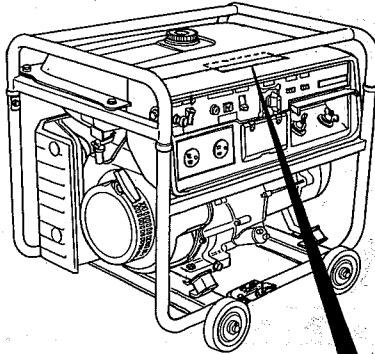
[必ずお読み下さい]


# 安全にご使用いただくために


## ラベルの位置

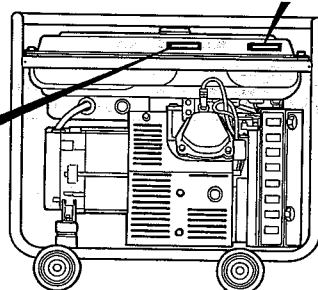
- 警告／注意 のラベルをよく読んで内容を理解してください。
- 警告／注意 のラベルを汚したり、はがしたりしないでください。


<W140>



|   |  |  |
|---|--|--|
|  | <b>警告</b><br>排気ガスには有毒成分が含まれていますから<br>屋内など換気の悪い場所で使用しないで下さい。  | 始動<br>1. 燃料と<br>2. 交流ス<br>3. (フューエ<br>4. エンジン<br>5. (オートア<br>6. チョー<br>7. スター<br>(エン<br>8. チョー |
|   | <b>注意</b><br>ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んでお使い下さい。<br>火気厳禁<br>• 給油時はエンジンを停止し、ガソリンは赤線レベル以上入れないで下さい。<br>• ガソリンがこぼれたらよく拭き取って下さい。<br>• 建物、設備から1m以上離して使用して下さい。<br>• 発電機の周囲に火気や燃えやすいものを近づけないで下さい。<br>感電注意<br>• 雨や雪の中では使用しないで下さい。<br>• 電力会社の電気配線には絶対に接続しないで下さい。 |  |

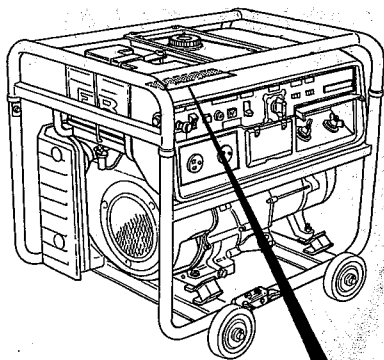
|   |   |
|---|---|
|  | <b>注意</b><br>高電圧注意<br>感電のおそれあり、スパーク<br>プラグにさわらないで下さい。 |
|---|---|






|  |  |
|--|--|
|  | <b>注意</b><br>高温注意<br>火傷のおそれあり、マフラー及び<br>マフラーカバーにさわらないで下さい。 |
|--|--|


# 安全にご使用いただくために

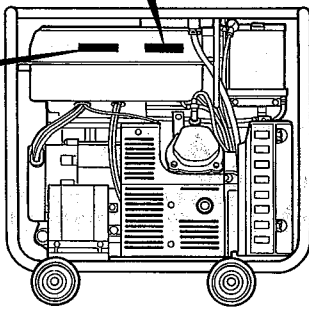
<W141>



|   |   |   |
|---|---|---|
|  | <b>▲ 警告</b>   | <b>始動時</b><br>1. 燃料と<br>2. 交流ス<br>3. (フェー<br>4. エンジ<br>5. (オート<br>6. チョー<br>7. スター<br>(エン<br>8. チョー |
|   | 排気ガスには有毒成分が含まれていますから<br>屋内など換気の悪い場所で使用しないで下さい。  |   |
|  | <b>▲ 注意</b>   |   |
|   | ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んでお使い下さい。<br><b>火気厳禁</b><br>・給油時はエンジンを停止し、ガソリンは赤線レベル以上入れないで下さい。<br>・ガソリンがこぼれたらよく拭き取って下さい。<br>・建物、設備から1m以上離して使用して下さい。<br>・発電機の周囲に火気や燃えやすいものを近づけないで下さい。<br><b>感電注意</b><br>・雨や雪の中では使用しないで下さい。<br>・電力会社の電気配線には絶対に接続しないで下さい。 |   |

|   |             |
|---|-------------|
|  | <b>▲ 注意</b> |
| <b>高電圧注意</b><br>感電のおそれあり、スパーク<br>プラグにさわらないで下さい。                                     |             |

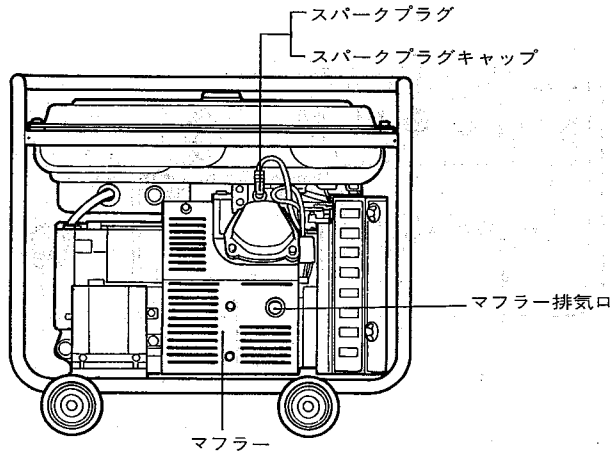
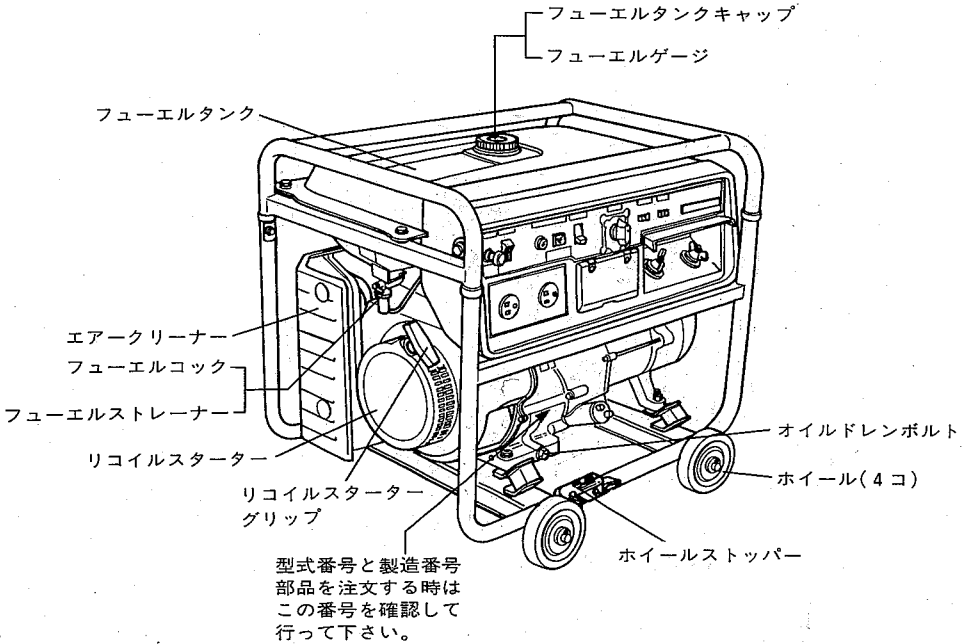
|   |             |
|---|-------------|
|  | <b>▲ 注意</b> |
| <b>高温注意</b><br>火傷のおそれあり、マフラー及び<br>マフラーカバーにさわらないで下さい。                                |             |



# 各部の名称

全体

<W140>

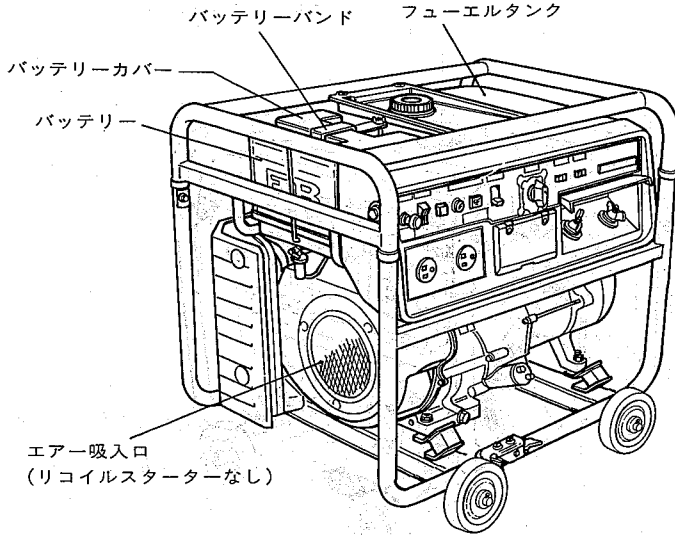


# 各部の名称

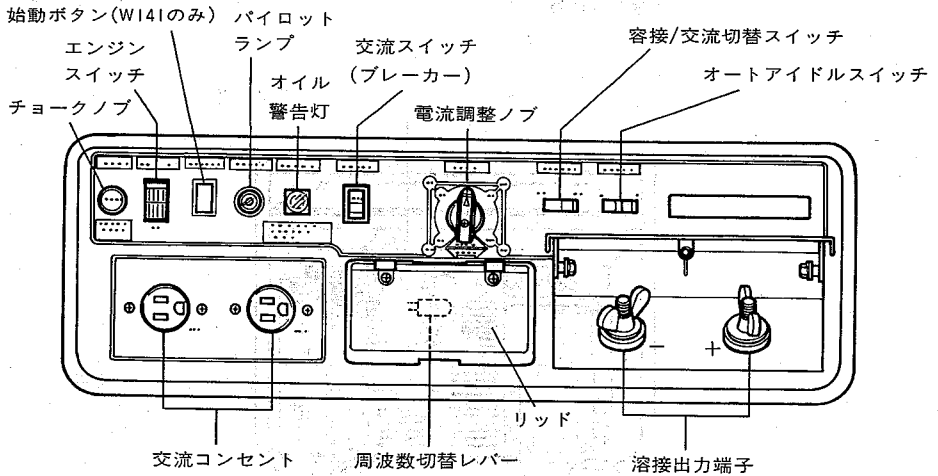
W140 W141

<W141>

下図に記入以外の各部は、W140と同様です。



コントロールパネル <W140およびW141>



# 各部の取扱い

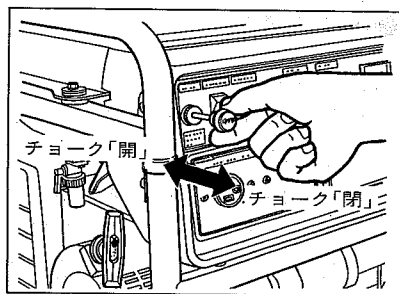
この章では各部の機能の説明をしています。溶接／発電機の実際の使用手順については「運転前の点検(日常点検)」以降の章を参照して下さい。

## ●チョークノブ

エンジン始動時、エンジンが冷えていて始動しにくい場合に操作をします。

エンジンが冷えている場合は、チョークノブを手前に引き「閉」位置へ切り替えて始動します。

エンジン始動後、エンジン回転が安定してから「開」位置へ戻します。



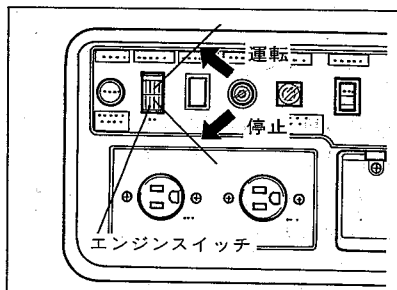
## ●エンジンスイッチ

エンジンの停止、運転可能状態を切替えるスイッチです。

「停止」位置：エンジンを停止させます。

エンジン始動はできません。

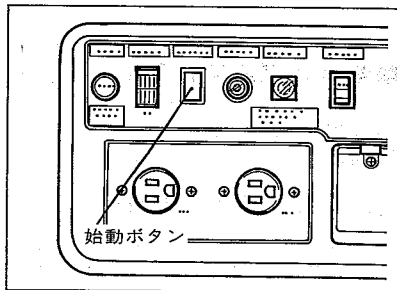
「運転」位置：エンジン始動時および運転時の位置です。



## ●始動ボタン〈W141のみ〉

エンジンを始動させるためのスイッチです。

始動スイッチを押すと、セルモーターが作動し、エンジンを始動させます。



# 各部の取扱い

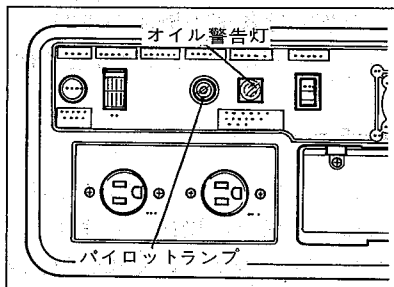
## ●パイロットランプ

発電中にこのランプが点灯します。

## ●オイル警告灯

エンジン運転中にエンジンオイルが不足した場合、このランプが点灯し、エンジンを自動的に停止させます。

エンジン始動時にエンジンオイルが入ってなかったり、不足している場合は、始動を試みてもこのランプが点滅して始動できません。



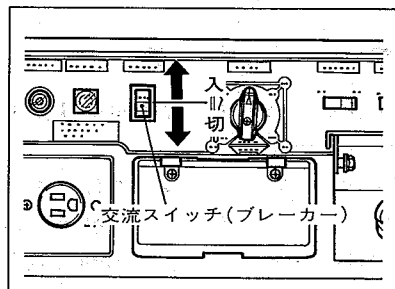
## ●交流スイッチ(ブレーカー)

100V 交流出力回路の保護用ブレーカースイッチです。

使用可能な出力範囲を超えて使用したり、電気器具側に異常が発生した場合に、このスイッチが自動的に切れ、回路を遮断して交流出力が取り出せないようにします。

「入」位置：交流出力が取り出せます。

「切」位置：交流出力が取り出せません。



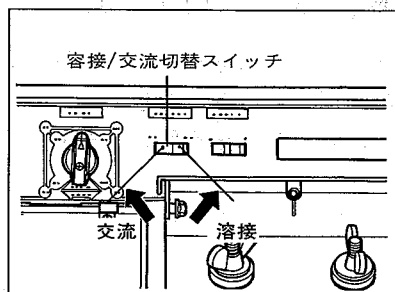
## ●溶接／交流切替スイッチ

溶接出力と交流出力の切り替えをするスイッチです。

溶接出力と交流出力を同時に取り出すことはできません。

「溶接」位置：溶接出力(直流)を取り出す位置です。

「交流」位置：100V 交流出力を取り出す位置です。

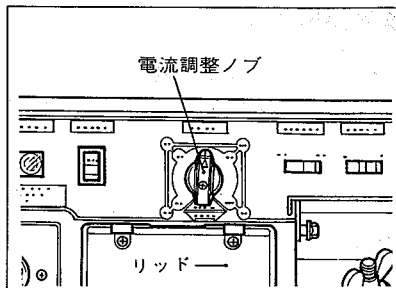


# 各部の取扱い

## ●電流調整ノブ

溶接条件（溶接母材の板厚，溶接ケーブル，溶接方法など）に合わせこのノブを回し，溶接電流の強弱を調整します。

| 電流調整範囲  |          |
|---------|----------|
| 「LOW」側  | 40～100 A |
| 「HIGH」側 | 50～140 A |

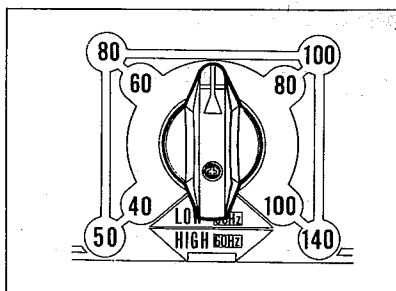


## ●周波数切替レバー

溶接出力の使用時：

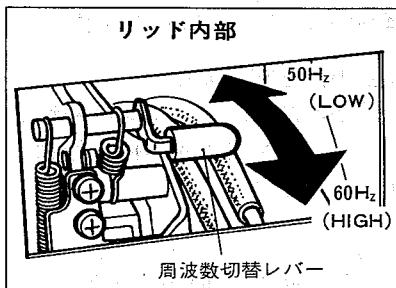
「50Hz」位置：電流調整範囲は「LOW」側になります。

「60Hz」位置：電流調整範囲は「HIGH」側になります。



交流出力の使用時：

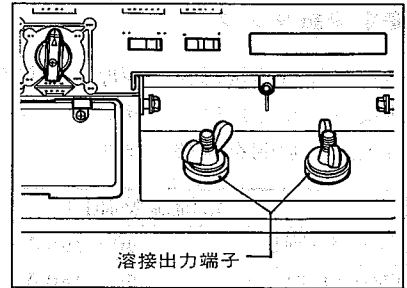
使用する電気器具の周波数表示に合わせ「50 Hz」または「60Hz」位置を選択します。



# 各部の取扱い

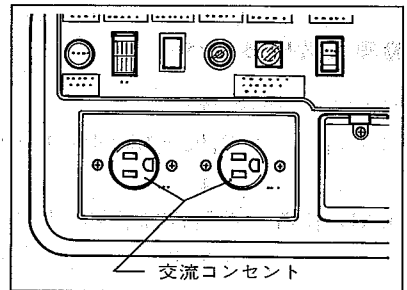
## ●溶接出力端子

溶接出力を取り出す端子（ターミナル）です。  
この端子に溶接ケーブルを接続します。



## ●交流コンセント

100V 交流出力を取り出すコンセントです。



## ●オートアイドルスイッチ

運転中、溶接／発電機に負荷がかかっていない状態の時に、エンジンの回転を自動的に下げるオートアイドル機能の作動を切替えるスイッチです。

「切」位置：

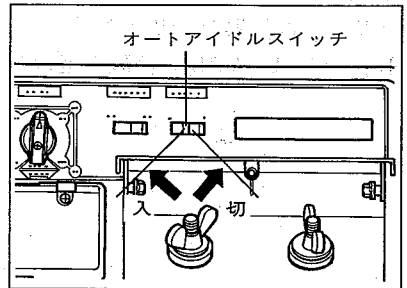
オートアイドル機能は作動しません。

溶接アーク発生の有無または電気器具の作動の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転されます。

「入」位置：

オートアイドル機能が作動します。

溶接アーク発生時または電気器具の作動時のみエンジンは定格回転となり、それ以外の時には、自動的に低回転になります。





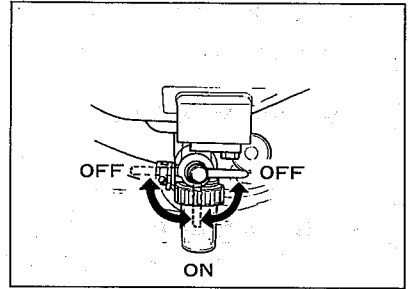
# 各部の取扱い

## ●フューエルコック

フューエルタンクからキャブレターまでのガソリンの流れを、フューエルコックレバーの位置を切り替えることにより制御します。

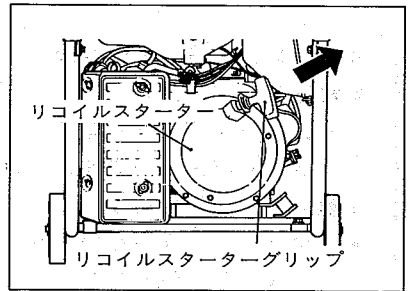
「ON」位置：キャブレターへガソリンが流れます。(エンジン運転時の位置)

「OFF」位置：キャブレターへのガソリンの流れが止まります。



## ●リコイルスターター & リコイルスターターグリップ<W140のみ>

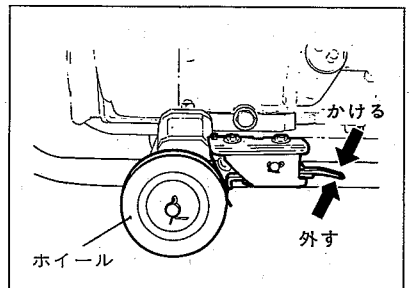
エンジンを始動させるための装置です。リコイルスターターグリップを持って、勢いよく引き出すことにより、エンジンを始動させます。



## ●ホイールストッパー

ホイール(車輪)の1個にブレーキをかけ、固定します。

ブレーキをかける場合には、このストッパーを踏み込み、外す場合には引上げます。



# 運転前の点検(日常点検)

溶接／発電機を使用する前に、以下に示す点検を実施して下さい。

## ▲ 注意

溶接／発電機の点検を行う場合は、事故を防ぐため次のことを厳守して下さい。

- エンジンを停止させること。
- 溶接／発電機は、水平で地盤のしっかりした所に置くこと。
- ホイールストッパーをかけること。

## ● 燃料

## ▲ 注意

ガソリン給油時および取扱い時には、火災などの事故を防ぐため、次のことを厳守して下さい。

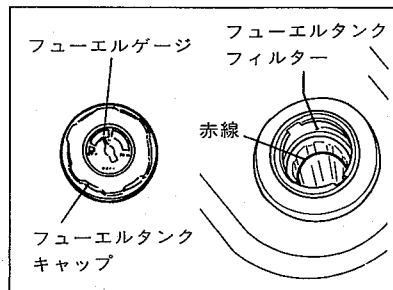
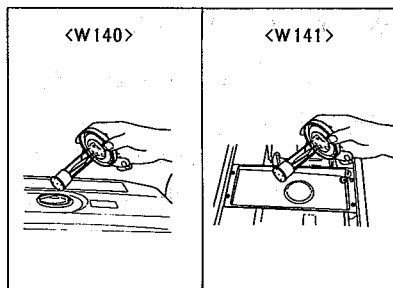
- エンジンを停止させること。
- 火気およびスパークを近づけないこと。
- 換気のよい所で行うこと。
- ガソリンをこぼさないように注意すること。万一、こぼれた場合には完全に拭き取り、乾かしてから始動すること。

1. 溶接／発電機の使用時間に見合ったガソリンがフェューエルタンク内にあるか、フェューエルタンクキャップ上のフェューエルゲージで確認して下さい。

必要であれば、ガソリンを補給して下さい。

ガソリン補給をする場合は、フェューエルコックレバーを「OFF」位置にして下さい。

ガソリンの補給は、フェューエルタンクキャップを取外し、給油口から行って下さい。給油限界位置を示す赤線（フェューエルタンクフィルター内）レベル以下となるようにガソリンを給油して下さい。



# 運転前の点検(日常点検)

使用ガソリン：

自動車用ガソリン

(無鉛レギュラーガソリンに限る)

フューエルタンク容量：

<W140>……15.0ℓ (赤線レベルまで)

<W141>…… 9.0ℓ (赤線レベルまで)

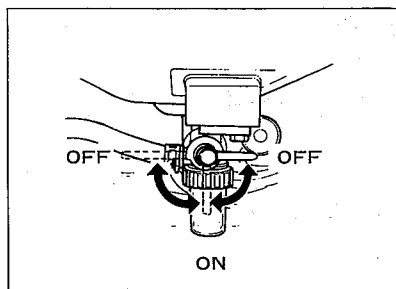
## ▲ 注意

ガソリンは燃料給油口の赤線レベル以上に入れないで下さい。太陽の熱などで膨張し、あふれ出る恐れがあります。

要点：

ガソリンの給油を行う時に、給油口のフューエルタンクフィルターを取外して行わないで下さい。燃料系のトラブルの原因となります。

2. フューエルタンクキャップを所定の位置に確実に取り付けて下さい。
3. フューエルコックレバーを「ON」位置にして下さい。
4. フューエルタンク・フューエルストレーナー・フューエルホースおよびその周辺からガソリンもれが発生していないか確認して下さい。
5. この後、すぐにエンジン始動を行わない場合は、フューエルコックレバーを「OFF」位置に戻しておいて下さい。



## ▲ 注意

ガソリンもれは火災などの事故の原因となります。

燃料系統のどこか1か所でも、ガソリンもれが発生している場合は、エンジンを始動させないで、販売店に点検・修理を依頼して下さい。

# 運転前の点検(日常点検)

## ●エンジンオイル

要点：

工場出荷時点では、エンジンオイルが入っていません。溶接／発電機の始動前にエンジンオイルを給油して下さい。

使用エンジンオイルについては36ページを参照して下さい。

1. 溶接／発電機が水平に置かれていることを確認して下さい。
2. オイルレベルゲージをゆるめて取外し、きれいな布で拭き、再度オイルレベルゲージを右図のように位置させ、付着したオイルから量と汚れを点検して下さい。

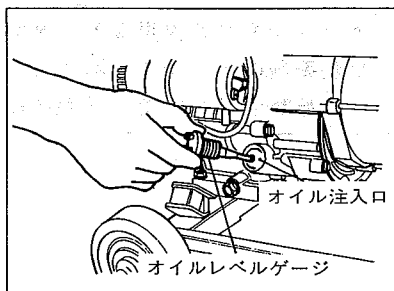
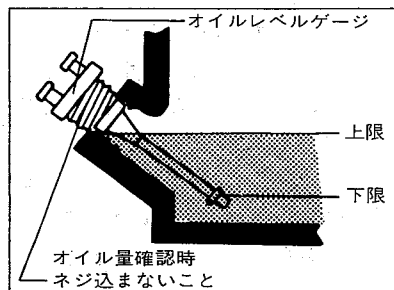
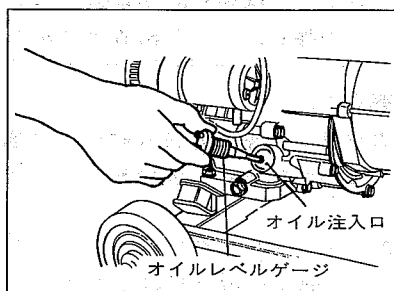
要点：

オイルレベルゲージはネジ込まないでエンジンオイルを付着させて下さい。

3. エンジンオイル量が規定(下限)より低い場合は補給し、汚れがひどい場合はオイル交換して下さい。

エンジンオイルの補給・交換方法については36ページを参照して下さい。

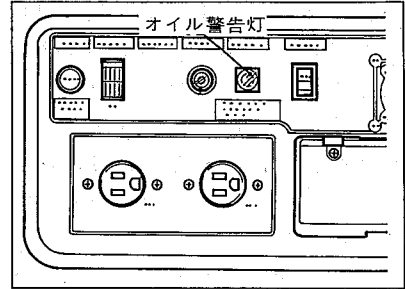
4. 作業終了後、オイルレベルゲージを所定の位置に確実に取付けて下さい。
5. エンジンからオイルの洩れが発生していないか点検して下さい。



# 運転前の点検(日常点検)

要点：

- エンジンオイルの量が規定レベル以下の場合には、オイルレベルセンサーが作動しエンジンが始動できません。
- 運転中にエンジンオイルが規定量以下のレベルになると、オイルセンサーが作動し、エンジンを自動的に停止させます。  
この場合、再始動を試みてもエンジンは始動しないか、また始動しても再度自動的に停止してしまいます。



- バッテリー <W141のみ>

## ▲ 注意

バッテリーの取扱いは、バッテリーに表示されている警告表示をよく読んだ上で、それに従って使用して下さい。

購入時（最初の使用時）

購入時のバッテリー液の注入とバッテリー取付けについては、お買い上げの販売店または特約店にご依頼下さい。

日常点検時

## ▲ 注意

バッテリーの点検を行う場合は、エンジンスイッチを「停止」位置にしてください。

1. バッテリー液の液面高さを点検して下さい。

# 運転前の点検(日常点検)

液面高さが「下限」より低い場合には、バッテリーバンドをゆるめてバッテリーカバーを取外した後、バッテリー液口栓を全て取外して、蒸留水を「上限」まで補水して下さい。補水後は、液口栓を取付けた後、バッテリーバンドでバッテリーカバーとバッテリーを確実に固定して下さい。

2. バッテリーターミナル部にゆるみがないか点検をして下さい。(バッテリーカバーを取外した時に点検して下さい。) バッテリーターミナル部にゆるみがみられたら増締めを行って下さい。

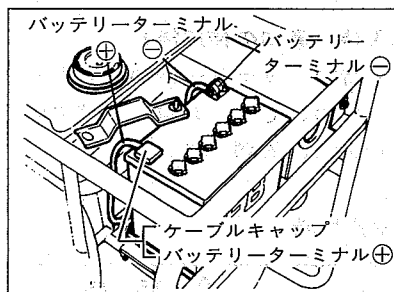
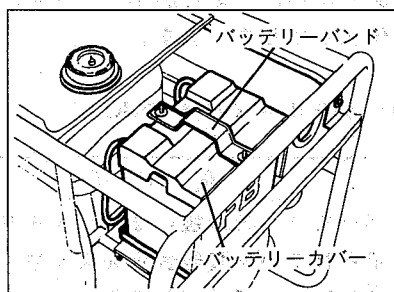
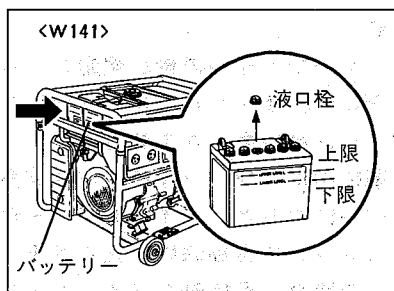
## ▲ 注意

バッテリーのプラスターミナルとマイナスターミナルを工具などで短絡(ショート)させないで下さい。スパークが発生し、ガソリンやバッテリー発生ガスに引火する恐れがあります。

バッテリーターミナル部に白い粉(腐食)がみられたら、次の手順でバッテリーケーブルをバッテリーターミナルから取外した後、ぬるま湯を含ませた布でよく拭き取って下さい。

- ①バッテリーケーブルのマイナス線(黒)を取外して下さい。
- ②ケーブルキャップを外してバッテリーケーブルのプラス線(赤)を取外して下さい。
- ③バッテリーケーブルを取付ける場合は逆の手順で行って下さい。

作業終了後、バッテリーバンドでバッテリーカバーとバッテリーを確実に固定して下さい。



# 運転前の点検(日常点検)

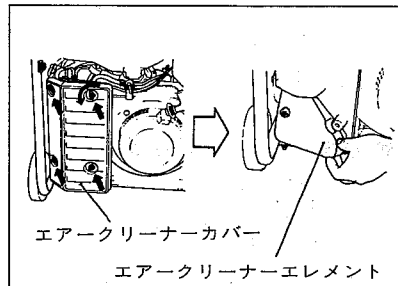
## 要点:

- バッテリーを取外した状態で、運転をしないで下さい。
- 接続するターミナルをまちがえると電気系統の故障の原因となります。

## ● エアクリーナー

エアクリーナーエレメントが過度に汚れていないか点検をして下さい。

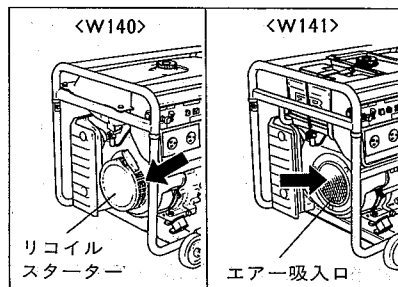
エアクリーナーエレメントの点検・清掃方法については40ページを参照して下さい。



## ● リコイルスターター<W140>

／エア吸入口<W141>

リコイルスターターのメッシュ部またはエア吸入口部に目詰まりや、わらくず、草などの付着がみられた場合には、きれいに取り除いて下さい。



## ● 全体的なチェック

1. 各部のボルトおよびナットにゆるみがないか確認して下さい。
2. 溶接／発電機の各部に損傷がないか目視で確認して下さい。
3. エンジン始動後に、異常な音や振動が発生していないか確認して下さい。

## 要点:

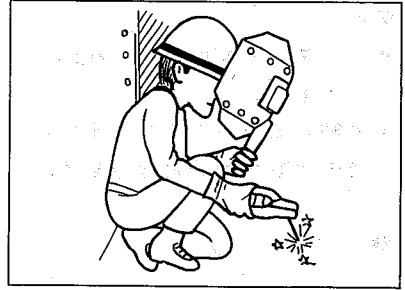
点検の結果、不具合や異常がみられた場合は、使用せずに販売店に点検・修理を依頼して下さい。

# 運転前の点検(日常点検)

## ●溶接作業用の器材・防具

溶接作業を行う前に、使用する溶接棒ホルダー、溶接ケーブル（キャプタイヤ）に損傷、すり切れ、絶縁不良などの不具合がないことを確認して下さい。

また、溶接作業時には、必ず溶接防具（防護マスク、皮手袋、皮製前掛け、作業靴など）を身につけて下さい。



## ●溶接ケーブルの選択

溶接ケーブルは、長いほどまたは電流が大きいほど太い溶接ケーブルを使用する必要があります。

下表を参考にして必要な溶接ケーブルの太さのめやすをたてて下さい。

(単位mm)

| ケーブルの長さ<br>溶接電流 | 20 m | 30 m | 40 m | 50 m | 60 m |
|-----------------|------|------|------|------|------|
| 100A            | φ22  | φ22  | φ30  | φ30  | φ30  |
| 140A            | φ30  | φ30  | φ30  | φ38  | φ38  |

要点：

溶接ケーブルからの発熱の放散をよくするために、溶接ケーブルは、ロール状にせず、引き伸ばした状態で使用して下さい。



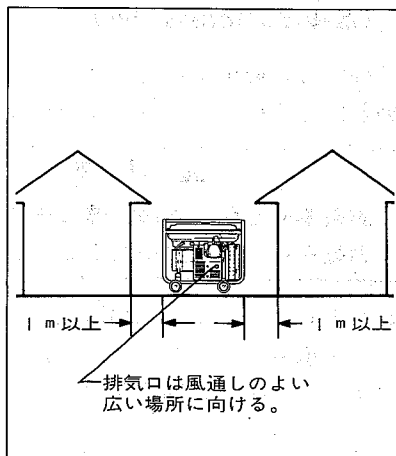
# 設置のしかた

## ●設置場所

### ▲ 警告

排気ガス中毒を防ぐため、溶接／発電機の設置（使用）場所について、次のことを厳守して下さい。

- 屋内で使用しないこと。
- 室内・倉庫・トンネル・井戸・船倉・タンク内などや建物・遮へい物などで囲まれ、換気の悪い場所では使用しないこと。
- エンジンの排気口は、風通しのよい広い場所に向け、排気ガスがたまらないよう換気に注意すること。



### ▲ 注意

火災を防ぐため、溶接／発電機の設置（使用）場所について、次のことを厳守して下さい。

- 建物、その他の設備から、溶接／発電機を1 m 以上離すこと。
- 近くに燃えやすいもの（枯れ葉・落葉・木くず・紙くず・わらくずなど）、危険物（油脂類・シンナー・火薬など）を置かないこと。
- 溶接／発電機を箱・カバーなどで囲った状態で使用しないこと。

### ▲ 注意

運転中の自然移動・転倒による事故を防ぐため、次のことを厳守して下さい。

- 水平で地盤のしっかりした所に置くこと。
- ホイールストッパーをかけること。
- ホイールには、確実な車輪止めを行うこと。

# 始動のしかた

## ●溶接ケーブルの接続

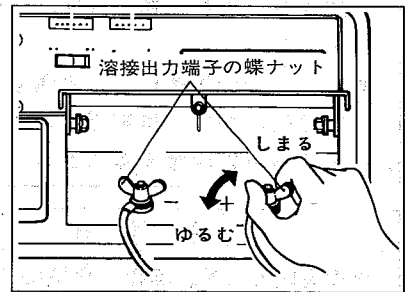
(溶接出力使用時のみ)

溶接出力を使用する場合は、必ずエンジン始動前に、溶接ケーブルの接続を行って下さい。

### ▲ 注意

感電事故を防ぐため、運転中には溶接出力端子には触れないで下さい。

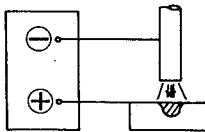
コントロールパネル上の溶接出力端子の蝶ナットを取外し溶接ケーブルを接続させた後、蝶ナットで確実に締め付けて下さい。



溶接出力端子にはプラス(+)とマイナス(-)の極性が表示されています。

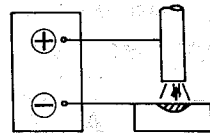
溶接の方法や材料・電流容量などにより、溶接ケーブルの接続極性を選択して下さい。

正極性



構造用鋼材・厚板・合金鋼など

逆極性



肉盛・薄板・ステンレス鋼など

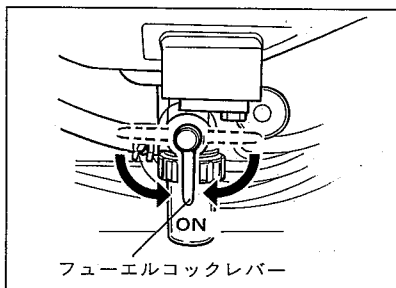
# 始動のしかた

## ● 始動の手順

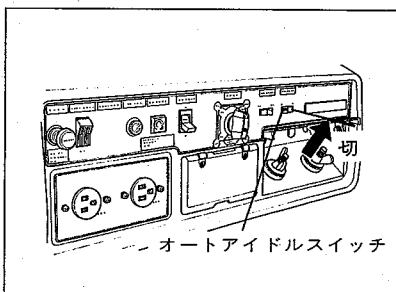
### ▲ 注意

電気器具の不意の作動による事故を防ぐため、始動時には、電気器具のプラグをコンセントから抜いておいて下さい。

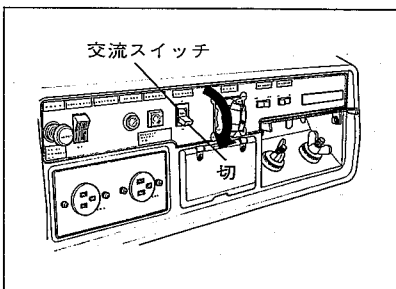
1. フューエルコックレバーを「ON」位置にして下さい。



2. オートアイドルスイッチを「切」位置にして下さい。

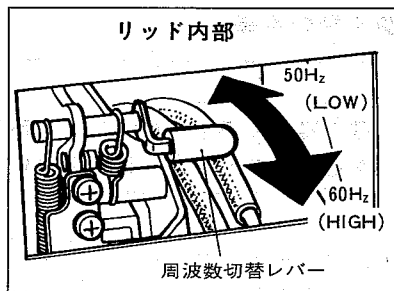


3. 交流スイッチを「切」位置にして下さい。

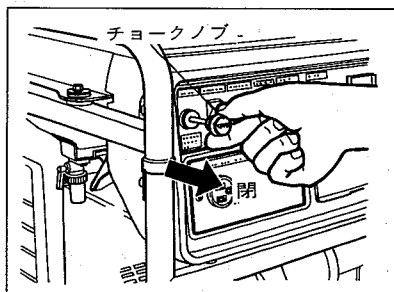


# 始動のしかた

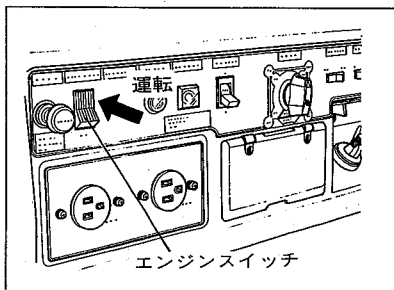
4. 周波数切替レバーをどちらかに選択して下さい。(13ページ「各部の取扱い」の章を参照のこと。)



5. エンジンが冷えている場合は、チョークノブを「閉」位置にして下さい。



6. エンジンスイッチを「運転」位置にして下さい。



# 始動のしかた

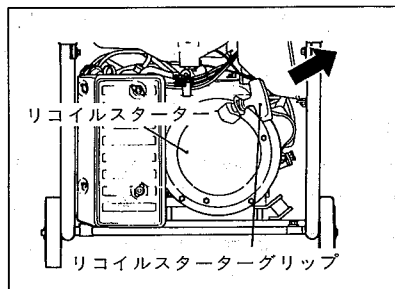
## 7. <W140の場合>

リコイルスターターグリップを握り、スターターロープを手ごたえのある所までゆっくりと引き出し、そこから勢いよく引張って下さい。エンジンが始動するまでこれをくり返して下さい。

### 要点：

リコイルスターターの損傷を防ぐため、次のことを厳守して下さい。

- リコイルスターターのロープは限界以上に引き出さないこと。
- リコイルスターターグリップはゆっくりと戻すこと。
- エンジン運転中は、リコイルスターターグリップの操作を行わないこと。

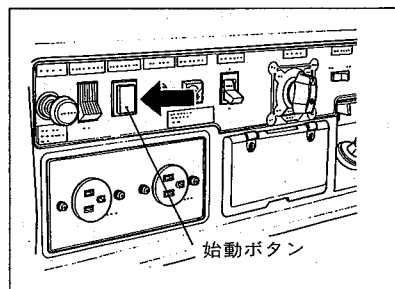


## 7. <W141の場合>

始動ボタンを押してエンジンを始動させて下さい。

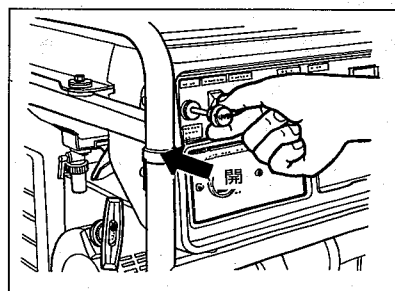
### 要点：

- 始動ボタンは5秒以上押し続けしないで下さい。
- エンジン始動後は、始動ボタンを押さないで下さい。



8. エンジン始動後、チョークレバーをエンジンの回転状況を確認しながら、徐々に「開」方向へ戻して下さい。

最終的にはチョークレバーを完全に「開」位置まで戻して下さい。

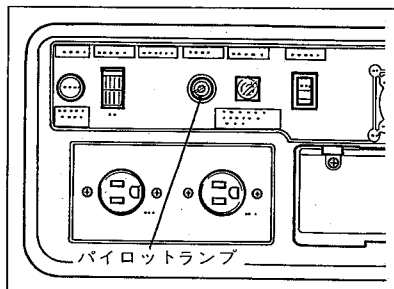


# 始動のしかた

9. 2～3分間、エンジンの暖機運転を行って下さい。

## 要点：

エンジン始動後に、パイロットランプの点灯がみられない場合は、使用せずに販売店に点検・修理を依頼して下さい。



## ▲ 注意

溶接／発電機の運転中には、エンジン・マフラーが熱くなっており、火傷の恐れがありますので、これらにさわらないようにして下さい。

## ● ならし運転

ならし運転は、新品の摺動部分（シリンダ、ピストンなど）に当たりをつけ、偏った摩耗を防ぐために行います。

正しいならし運転を行うことは、発電機の寿命を伸ばし、最大限の性能を引き出すために必要なことです。

ならし運転の方法は、次に示す手順に従い、10時間をめやすに行って下さい。

1. エンジンを始動させ、無負荷で5分間程度の暖機運転を行って下さい。
2. 最初の10時間までは、定格出力の2/3以下の範囲内で使用して下さい。

定格出力の2/3：（交流出力）1700KVAまで

（溶接出力）3.2mm溶接棒で100Aまで

## 要点：

ならし運転の間中は過大な負荷をかけないで下さい。溶接／発電機が損傷する恐れがあります。

3. ならし運転が終了した時点で、最初のエンジンオイル交換を実施して下さい。オイル交換の方法は37ページを参照下さい。

# 電気の使いかた


## ▲ 注意

火災や感電事故を防ぐため、次のことを厳守して下さい。

- 電力会社からの電気配線や屋内配線には、溶接／発電機を接続させないこと。
- 他の電源から電力の供給を受けているコンセントには、溶接／発電機を接続させないこと。

## ●使用可能な出力の範囲

一般的な電気器具の、使用可能と推定される容量の上限のめやすを、下表に示します。電気器具の消費電力（ボルト・アンペア）を確認のうえ、ご使用下さい。

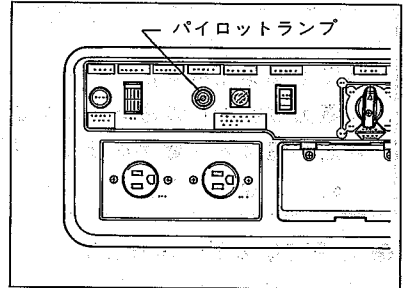
|                          | 使用器具  | 使用可能上限のめやす   |                    | 備考  |
|--------------------------|---|--|--------------------|---|
|                          |   | 50H <sub>2</sub> 時   | 60H <sub>2</sub> 時 |   |
| 交流<br>(AC)<br>単相<br>100V | 白熱灯, 電熱器具   | 2500Wまで  | 3000Wまで            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水銀灯やモーター類は、使用可能範囲以下でも起動時に大きな電力を必要とするため、使用できない場合もあります。</li> <li>・モーター類は、モーターの使用条件により運転に必要な電力が変化します。</li> </ul> 要点：<br>溶接出力と同時に使用しないで下さい。 |
|                          | 蛍光灯, 水銀灯  | 830～1250W程度まで  | 1000～1500W程度まで     |   |
|                          | 単相交流整流子モーター類  | 1670～2080W程度まで   | 2000～2500W程度まで     |   |
|                          | 単相誘導モーター類   | 500～830W程度まで   | 600～1000W程度まで      |   |
| 溶接<br>(DC)               | 溶接作業<br> | 電流調整範囲：50～140A<br>定格電流：120A<br>定格使用率：50%<br>適用溶接棒：φ2～φ3.2mm<br>(以上3600rpm時)<br>定格使用率50%とは、10分間の運転中に連続して5分間の溶接ができることを意味します。 |                    | 溶接材料・溶接棒・溶接方法などにより、使用が困難な場合もあります。<br><br>要点：<br>交流出力と同時に使用しないで下さい。  |

# 電気の使いかた

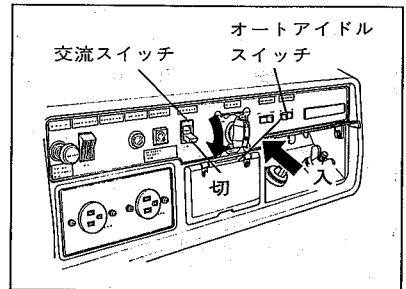
## ●溶接出力

1. パイロットランプが点灯していることを確認して下さい。

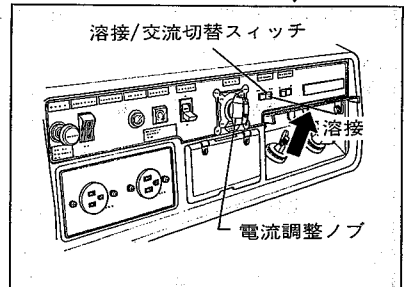
この章は、前章「始動のしかた」の続きで、すでに溶接ケーブルが接続され、エンジンが運転されている状態を前提としています。



2. オートアイドルスイッチを「入」位置にして下さい。
3. 交流スイッチを「切」位置にして下さい。



4. 溶接/交流切替スイッチを、「溶接」位置にして下さい。

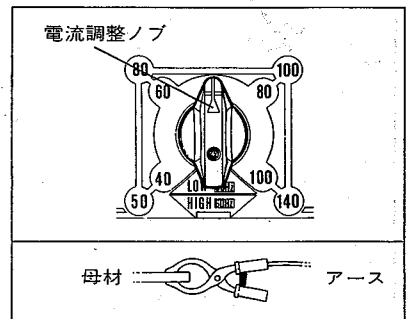


5. 電流調整ノブを回して、溶接作業に最適な電流値に合わせて下さい。

使用電力に応じて、LOW/HIGH (50Hz/60Hz) の切替えを周波数切替レバーで行って下さい。

### 要点：

- 溶接／発電機の損傷を防ぐため周波数切替レバーの操作は、エンジンを停止した状態で行って下さい。
- アース(接地)の接続は確実にを行い、アースは母材に直接クランプして下さい。

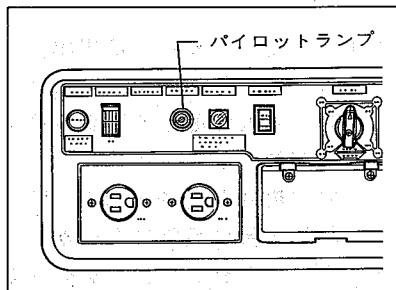




# 電気の使いかた

## ●交流出力

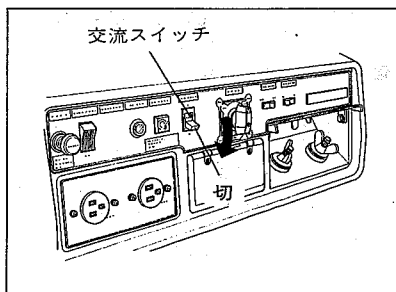
1. パイロットランプが点灯していることを確認して下さい。



2. 交流スイッチを「切」位置にして下さい。

### ▲ 注意

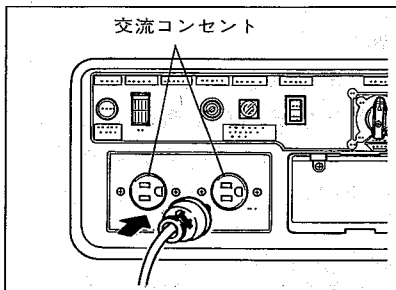
電気器具の不意の作動による事故を防ぐため、電気器具のプラグをコンセントに差し込む前に、交流スイッチを「OFF」にしておいて下さい。



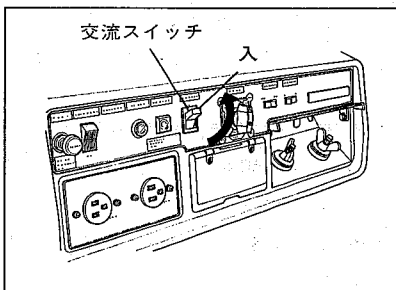
3. 電気器具のプラグを溶接／発電機のコンセントに確実に差込んで下さい。

### ▲ 警告

感電事故を防ぐため、ぬれた手でプラグをコンセントに差し込まないで下さい。



4. 交流スイッチを「入」位置にして下さい。



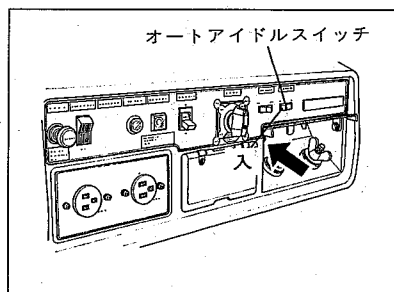
# 電気の使いかた

要点：

- 1 コンセントからの使用出力は15A以下として下さい。
- 交流出力の使用中に、交流スイッチが「切」位置に切り替わってしまう場合は、次のことを確認し不具合を解消してから、交流スイッチを「入」位置に切り替えて再使用して下さい。
  - ・使用可能な交流出力の範囲を超えた電力を取り出していないか。
  - ・電気器具に異常はないか。
- 使用可能な交流出力の範囲を超えて使用した場合、電気器具によっては交流スイッチが「切」位置に切り替わらずに、エンジン回転が低下してしまうことがあります。この場合は使用を中止して下さい。

## ● オートアイドル

オートアイドルスイッチを「入」位置にしておくと、電気器具作動時には自動的に定格回転となり、作動終了時には自動的に低回転(約2300rpm)になります。



要点：

次に示す場合には、オートアイドルスイッチを「切」位置にして使用して下さい。

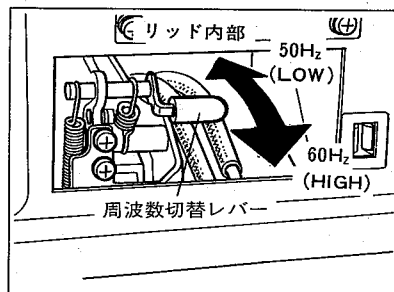
- 電気器具側に自動の「切・入」スイッチ機能を備えた電気器具(コンプレッサーなど)を使用する場合。
- 80W以下の電気器具を使用する場合。

## ● 周波数の切替え (溶接出力のLOW/HIGHの切替え)

電気器具の周波数表示を確認し、周波数切替レバーをそれに合わせて切替えて下さい。

要点：

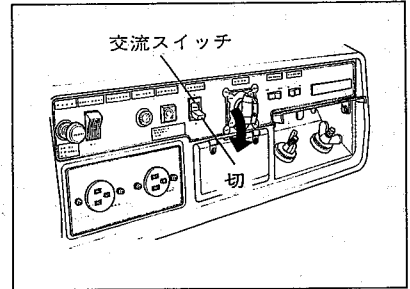
- 溶接・発電機の損傷を防ぐため周波数切替レバーの操作は、エンジンを停止した状態で行って下さい。
- 周波数の校正については、販売店に依頼して下さい。



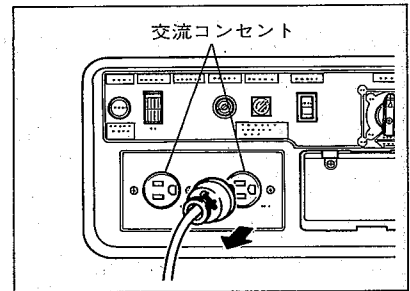
# 停止のしかた

交流出力使用の場合は次の手順に従って下さい。

1. 接続している電気器具のスイッチを「切」(OFF) にして下さい。
2. 交流スイッチを「切」位置にして下さい。



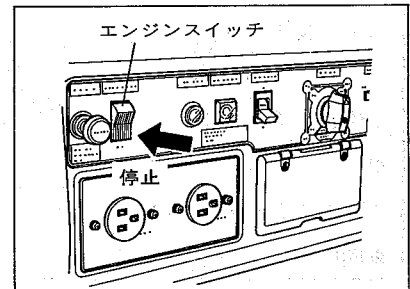
3. 電気器具のプラグを溶接・発電機のコンセントから抜いて下さい。



**警告**  
感電事故を防ぐため、ぬれた手でプラグをコンセントから抜かないで下さい。

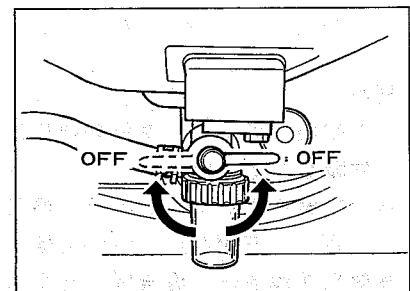
4. 溶接・発電機を無負荷で1～2分間程度運転させて下さい。
5. エンジンスイッチを「停止」位置にして、エンジンを停止させて下さい。

溶接出力使用の場合は、溶接作業を中止し、無負荷で1～2分程度運転させた後、エンジンスイッチを「停止」位置にして、エンジンを停止させて下さい。



6. フューエルコックレバーを「OFF」位置にして下さい。

運転停止後に、運搬する場合は42ページ「運搬」の章を、長期間使用の予定がない場合は44ページ「長期格納とその後の再使用」の章を参照して下さい。



# 定期点検

溶接／発電機を常に良い状態に保ち、安全に使用するために、下表のスケジュールに基づき、定期点検を行って下さい。

点検の結果、不具合や異常がみられた場合は、使用せずに販売店に点検・修理を依頼して下さい。

| 項目                              | 期間 | 日常点検内容            | 最初の20時間     | 50時間毎          | 100時間毎 | 300時間毎 | 記載ページ |
|---------------------------------|----|-------------------|-------------|----------------|--------|--------|-------|
| スパークプラグ                         |    | —                 | I           | —              | I      | —      | 35    |
| フューエルタンクフィルター                   |    | —                 | —           | —              | C      | —      | 38    |
| フューエルストレーナー                     |    | 損傷, ガソリンもれ        | C           | —              | C      | —      | 38    |
| フューエルホース                        |    | —                 | ※2年毎に定期的に交換 |                |        | —      | 39    |
| エンジンオイル                         |    | 量, 汚れ, もれ         | R           | 50時間または6ヵ月毎に交換 |        | —      | 36    |
| エアークリーナー<br>(エレメント)             |    | 汚れ, 損傷            | —           | C              | —      | —      | 40    |
| リコイルスターター<W140><br>エアー吸入口<W141> |    | 詰まり, 損傷           | —           | —              | I      | —      | 21    |
| ボルト&ナット                         |    | ゆるみ               | —           | T              | —      | —      | 41    |
| バッテリー<W141>                     |    | 液漏, ターミナルのゆるみ, 腐食 | —           | I              | —      | —      | 19    |
| 全体的なチェック                        |    | 損傷, 音             | I           | I              | —      | —      | 21    |
| ※コンプレッション                       |    | —                 | —           | —              | —      | I      | —     |
| ※バルブクリアランス                      |    | —                 | —           | —              | —      | I      | —     |
| ※燃焼室                            |    | —                 | —           | —              | —      | I      | —     |

I：点検，清掃，調整，給油，必要ならば交換。

C：清掃。 R：交換。 T：締付。

## 要点：

- 上記表中の※マーク付の項目については、お買い求めの販売店に点検・整備を依頼して下さい。
- 上記表中の※マークの無い項目については、記載ページを参照にして実施して下さい。不明な点については、販売店におたずね下さい。
- 部品交換を行う場合は、必ずスズキ純正部品をご使用下さい。

# 簡単な点検・整備

## ▲ 注意

溶接／発電機の点検・整備を行う場合は、事故を防ぐため次のことを厳守して下さい。

- エンジンを停止させること。
- 溶接／発電機は、水平で地盤のしっかりした所に置くこと。
- ホイールストッパーをかけること。

## ●スパークプラグ

スパークプラグの電極が汚れていたり電極のギャップが不適当であると、エンジン不調の原因となりますので、定期的に清掃・調整を行って下さい。

## ▲ 注意

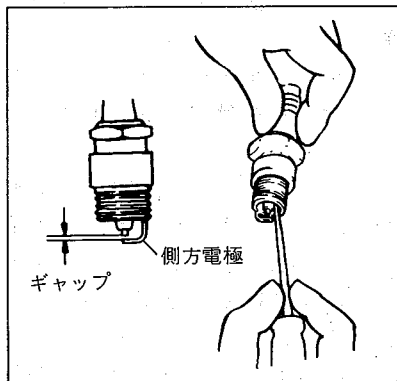
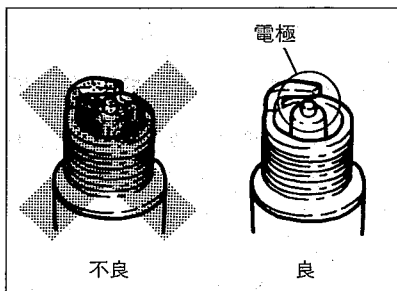
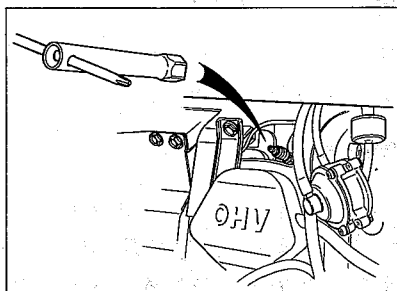
エンジン停止直後は、スパークプラグ本体の温度が高く、火傷をする恐れがあります。スパークプラグが充分冷えてから取外して下さい。

1. スパークプラグキャップをスパークプラグから外した後、付属のプラグレンチでスパークプラグを取外して電極の焼け具合(色)を確認して下さい。

- きつね色 : 正常
- 白色・黒色 : エンジン調整不良かスパークプラグ選定不良  
(販売店にご相談下さい。)

2. 電極付近に堆積したカーボンを清掃して下さい。
3. 電極のギャップを確認し、合っていない場合は側方電極部を軽くたたいて調整して下さい。

スパークプラグギャップ値：0.7～0.8mm



# 簡単な点検・整備

4. 所定の位置にスパークプラグを取付けて下さい。

指定スパークプラグ：BPR5ES

要点：

スパークプラグを取付ける場合は、最初は手で締込み、その後でスパークプラグレンチで締付けて下さい。

5. スパークプラグキャップをスパークプラグに取付けて下さい。

## ●エンジンオイル

使用時ごとのエンジンオイル量の点検および定期的なエンジンオイル交換は、エンジンの寿命を伸ばし、最大限の性能を引き出すために重要なことです。

### 使用エンジンオイル

エンジンオイルは、スズキ純正「エクスターオイル」またはAPI分類のSD・SE・SF級の4サイクルエンジンオイルを使用して下さい。エンジンオイルの粘度は、気温により右表を参照して使い分けて下さい。

|             |     |     |     |   |    |    |    |    |  |  |  |                  |
|-------------|-----|-----|-----|---|----|----|----|----|--|--|--|------------------|
| マルチ<br>グレード |     |     |     |   |    |    |    |    |  |  |  | 20W - 50         |
|             |     |     |     |   |    |    |    |    |  |  |  | 15W 40, 15W 50   |
|             |     |     |     |   |    |    |    |    |  |  |  | 10W 40, 10W - 50 |
|             |     |     |     |   |    |    |    |    |  |  |  | 10W 30           |
|             |     |     |     |   |    |    |    |    |  |  |  | 5W 30            |
| 温度<br>℃     | -30 | -20 | -10 | 0 | 10 | 20 | 30 | 40 |  |  |  |                  |

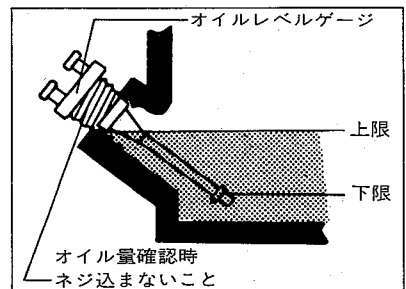
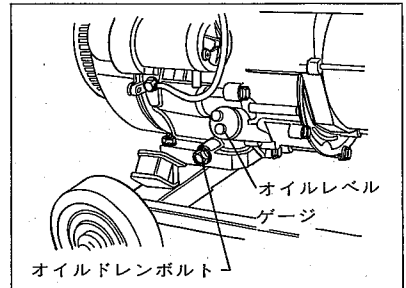
### エンジンオイルの点検および補給

1. 溶接／発電機が水平に置かれていることを確認して下さい。
2. オイルレベルゲージをゆるめて取外し、きれいな布で拭き、再度オイルレベルゲージを右図のように位置させ、付着したオイルから量と汚れを確認して下さい。

要点：

オイルレベルゲージは、ネジ込まないでエンジンオイルを付着させて下さい。

3. エンジンオイルが規定（下限）より低い場合は、オイル注入口（オイルレベルゲージ取付穴）からエンジンオイルを上限值まで補給して下さい。
4. 作業終了後、オイルレベルゲージを所定の位置に確実に取付けて下さい。



# 簡単な点検・整備

5. エンジンからオイルのもれが発生していないか点検して下さい。

## エンジンオイルの交換

前項でのエンジンオイルの汚れ確認の結果、汚れがひどい場合および定期交換時期には、エンジンオイルの交換を行って下さい。

要点：

- 過度に汚れたエンジンオイルの使用やエンジンオイル補給の繰り返しは、エンジン損傷およびオイルセンサー誤作動の原因となります。
  - エンジンオイルは、使用しなくても自然劣化しますので、定期点検・交換を行って下さい。
1. エンジンオイルの交換は、排出をよくするためエンジンオイルがある程度暖まった状態の時に行って下さい。

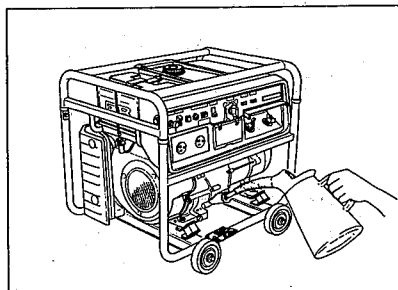
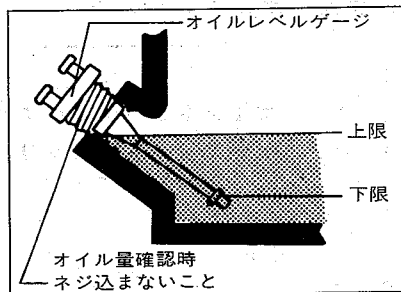
### ▲ 注意

エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっており、火傷をする恐れがあります。ドレンボルトを素手で充分にさわることができる温度になるまで待ってから、オイル交換をして下さい。

2. オイルパンをオイルドレンボルトの下に置き、オイルドレンボルトをゆるめて取外して下さい。
3. オイルレベルゲージをゆるめて取外して下さい。
4. エンジンオイルが完全に抜けてから、オイルドレンボルトを所定の位置に確実に取付けて下さい。
5. オイル注入口より、新しいエンジンオイルを規定レベル（上限）まで給油して下さい。

エンジンオイル量：約1.1ℓ

6. オイルレベルゲージを所定の位置に確実に取付けて下さい。



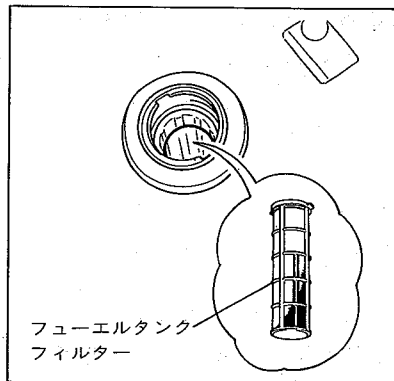
# 簡単な点検・整備

## ●フューエルタンクフィルター

### ▲ 注意

フューエルタンクフィルターの点検・清掃を行う場合は、火気およびスパークを近づけないで下さい。ガソリンや洗油に引火する恐れがあります。

1. フューエルタンクキャップを取外して下さい。
2. フューエルタンクフィルターをフューエルタンクから取出し、洗油で洗浄し、ゴミなどを取り除いて下さい。
3. フューエルフィルターを所定の位置に戻した後、フューエルタンクキャップを所定の位置に確実に取付けて下さい。

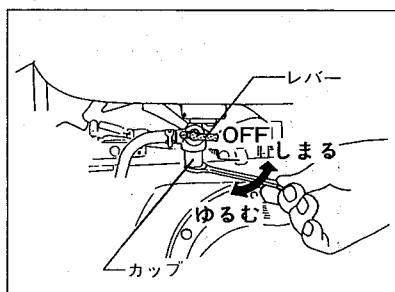


## ●フューエルストレーナー

### ▲ 注意

フューエルストレーナーの点検・清掃を行う場合は、火気およびスパークを近づけないで下さい。ガソリンや洗油に引火する恐れがあります。

1. フューエルコックレバーを「OFF」位置にして下さい。
2. フューエルストレーナーカップをゆるめて取外して下さい。
3. ゴムのパッキンとメッシュのフィルターを取り外して下さい。  
フューエルストレーナーカップ、メッシュのフィルター、ゴムのパッキンに損傷がないか点検して下さい。  
損傷がある場合は交換して下さい。

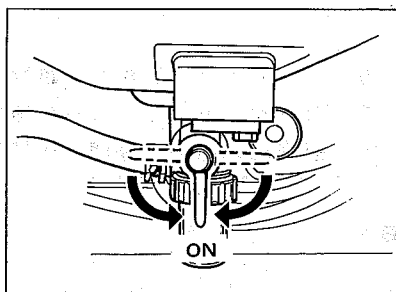
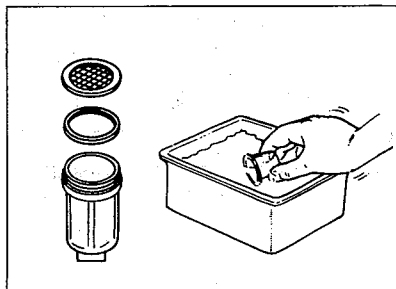




# 簡単な点検・整備

4. フューエルストレーナーカップおよびメッシュのフィルターを洗油で洗浄し、ゴミなどを取り除いて下さい。
5. 取り外した部品を所定の位置に取付け、フューエルストレーナーカップを燃料漏れがないように締め付けてください。
6. フューエルコックレバーを「ON」位置にして、フューエルストレーナーカップ部からガソリンがもれていないか確認して下さい。

確認後はフューエルコックレバーを「OFF」位置にして下さい。この時、フューエルコックの作動に不具合がないか確認して下さい。



## ▲ 注意

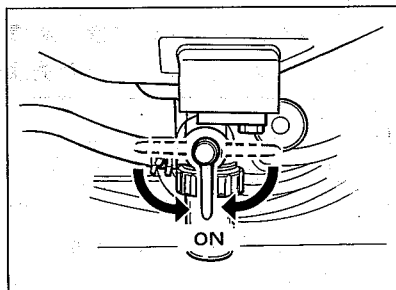
ガソリンもれは火災などの事故の原因となります。フューエルストレーナー周りからガソリンもれが発生している場合は、エンジンを始動させないで、販売店に点検・修理を依頼して下さい。

## ●フューエルホース

### ▲ 注意

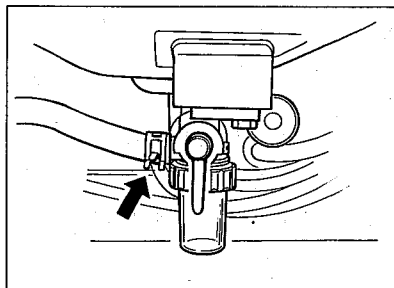
フューエルホースまわりの点検を行う場合は、火気およびスパークを近づけないで下さい。ガソリンに引火する恐れがあります。

1. フューエルコックレバーを「ON」位置にして下さい。フューエルホースにガソリン洩れ・損傷・変形などが点検して下さい。



# 簡単な点検・整備

2. フューエルホースのクランプに腐食・変形などがなく、所定の位置に取付けられていることを確認して下さい。
3. フューエルホース接続部に、ガソリンもれが発生していないか確認して下さい。



## ▲ 注意

ガソリンもれは火災などの事故の原因となります。フューエルホースや接続部まわりからガソリンもれが発生している場合は、エンジンを始動させないで、販売店に点検・修理を依頼して下さい。

## ● エアークリーナー

エアークリーナーが汚れていたり、詰まっていたりすると、エンジンの性能の低下や燃料消費量の増加のほか、エンジン損傷の原因にもなりますので、定期点検・清掃を行って下さい。

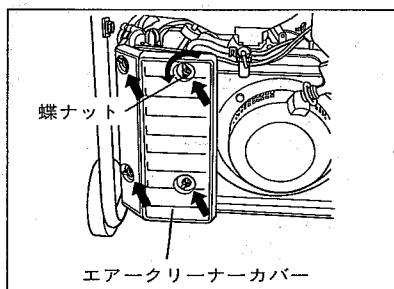
### 要点：

ほこりの多いところで使用した場合は、使用の毎または10時間ごとに点検・清掃を行って下さい。

## ▲ 注意

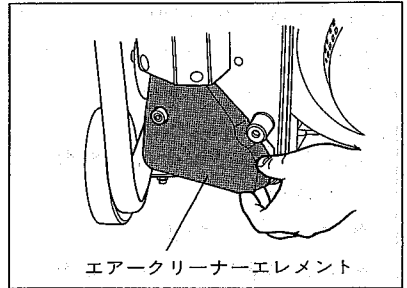
エアークリーナーの点検・清掃を行う場合は、火気およびスパークを近づけないで下さい。ガソリンや洗油に引火する恐れがあります。

1. エアークリーナーの周りの汚れ、ゴミなどを布で拭き取って下さい。
2. 2個の蝶ナットをゆるめて取外し、エアークリーナーカバーを取外して下さい。



# 簡単な点検・整備

3. エアークリーナーエレメントを取出して下さい。
4. エアークリーナーの本体・カバー内部の汚れ・ゴミなどを布で拭き取って下さい。



エアークリーナーエレメント

5. エアークリーナーエレメントを洗油で洗浄し、よく乾燥させて下さい。

要点：

洗浄後に、エアークリーナーエレメントに裂傷や詰まりがないか確認して下さい。

これらが発見された場合には、新品に交換して下さい。

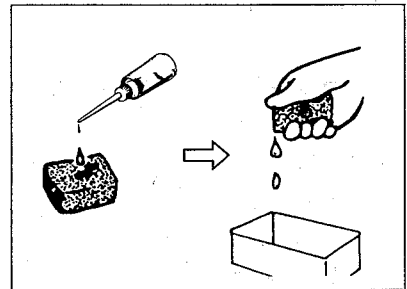
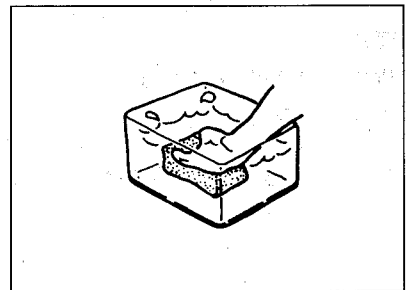
6. きれいなエンジンオイルをエアークリーナーエレメントに含ませ、固く絞って下さい。

7. エアークリーナーエレメントを所定の位置に入れ、エアークリーナーカバーを2個の蝶ナットで確実に取付けて下さい。

要点：

エアークリーナーエレメントを取外した状態で、運転しないで下さい。

エンジンが損傷する原因になります。



## ● ボルト & ナット

各部のボルト・ナットが確実に締め付けられていることを確認して下さい。

### ▲ 注意

溶接／発電機の構成部品を取外したり、ボルト・ナットが確実に締め付けられていない状態での運転はしないで下さい。事故の原因となります。

# 運搬のしかた

溶接／発電機を自動車などで運搬する場合は、フューエルタンクおよびキャプターから、全てのガソリンを排出させて下さい。

## ▲ 注意

ガソリンの排出を行う場合は、火災などの事故を防ぐため次のことを厳守して下さい。

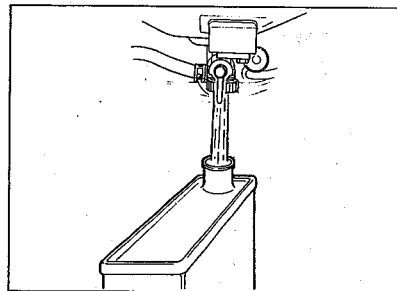
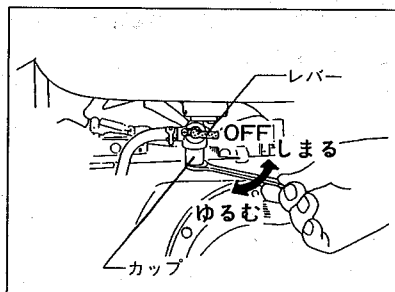
- エンジンを停止させること。
- 火気およびスパークを近づけないこと。
- 換気のよい所で行うこと。

要点：

排出させたガソリンは、速やかに油脂類処理施設（ガソリンスタンドなど）で処理して下さい。

## フューエルタンクからのガソリン排出

1. エンジンスイッチを「停止」位置にして下さい。
2. フューエルコックの下に耐ガソリン性の容器（オイルの空缶など）を置いて下さい。
3. フューエルコックレバーを「OFF」位置にして下さい。
4. フューエルストレーナーカップを緩めて取り外して下さい。
5. フューエルコックレバーを「ON」位置にし、容器の中にガソリンを排出して下さい。
6. フューエルタンク内のガソリンを完全に排出させた後、フューエルコックレバーを「OFF」位置にして下さい。
7. フューエルストレーナーカップを元通りに、燃料漏れがないように締め付けてください。



# 運搬のしかた

## キャブレターからのガソリン排出

1. フューエルコックレバーを「OFF」位置にして下さい。
2. エンジンを始動させ、キャブレター内のガソリンが無くなってエンジンが停止するまで、無負荷運転をして下さい。
3. エンジン停止後、エンジンスイッチを「停止」位置にして下さい。

## 運搬上の注意

### ▲ 注意

溶接／発電機を運搬する場合は次のことを厳守して下さい。

- エンジンを停止させること。
- 溶接／発電機は水平に置き、移動しないようホイールに確実な車輪止めを行うこと。
- 溶接／発電機を吊り下げる場合は、水平に安定するよう確実に固定すること。

# 長期格納とその後の再使用

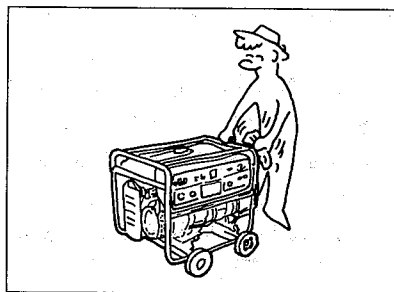
## ●長期格納

### ▲ 注意

長期格納の整備は、換気のよいところで行って下さい。

溶接／発電機を長期間（3か月以上）使用しない場合は次の手順に従って整備を行った後、格納して下さい。

1. 溶接／発電機の外部の清掃を行い、汚れ  
・ゴミなどを取り除いて下さい。
2. エンジンオイルを交換して下さい。  
(37ページ参照)
3. エアークリーナーの清掃を行って下さい。  
(40ページ参照)
4. フューエルタンク内のガソリンを抜き取  
って下さい。(42ページ参照)
5. フューエルストレーナーの清掃を行って  
下さい。(38ページ参照)
6. キャブレター内のガソリンを抜き取って  
下さい。(43ページ参照)



### 要点：

溶接／発電機を長期間使用せず、キャブレターやフューエルタンク内にガソリンを入れたままにしておくと、ガソリンが自然劣化・変質して、キャブレターのジェット類が詰まり、エンジン不調の原因となります。

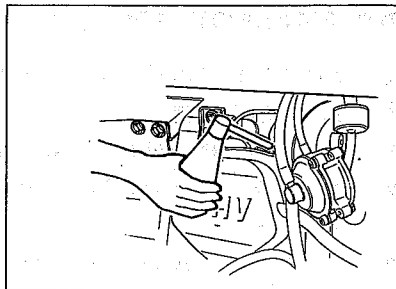
7. フューエルコックレバーを「OFF」位置  
にして下さい。

# 長期格納とその後の再使用

8. シリンダーヘッドからスパークプラグを取り外し、スパークプラグの取付穴から未使用のエンジンオイルを約10ml注入して下さい。

〈W140の場合〉 エンジンスイッチが「停止」位置にあることを確認してから、リコイルスターターグリップをゆっくりと数回引張って下さい。

〈W141の場合〉 エンジンスイッチを「運転」位置にし、始動ボタンを押してセルモーターでクランクシャフトを数回転させて下さい。その後、エンジンスイッチを「停止」位置に戻して下さい。



9. スパークプラグを所定の位置に取付け、スパークプラグキャップをスパークプラグに取付けて下さい。

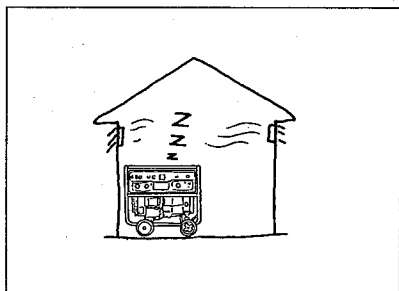
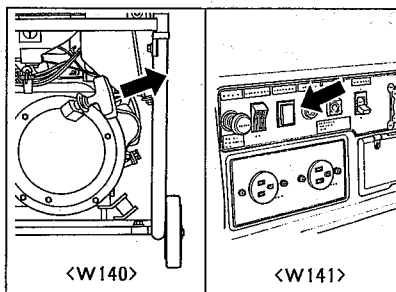
10. 〈W140のみ〉 リコイルスターターのロープに未使用のエンジンオイルを塗布して下さい。

11. 〈W140のみ〉 リコイルスターターグリップをゆっくりと引張り、重くなったところで止めておきます。

12. 〈W141のみ〉 エンジンスイッチが「停止」位置にあることを確認してから、バッテリーケーブルのマイナス線とプラス線を取外して下さい。(20ページ参照)

13. 〈W141のみ〉 バッテリー液の量を点検し、不足している場合は蒸留水を補水して下さい。(20ページ参照)

14. 屋内の、換気がよく湿気の少ない場所に格納して下さい。



# 長期格納とその後の再使用

## ●長期格納後の再使用

長期格納後に再び溶接／発電機を使用する場合は、次の手順に従い、溶接／発電機を使用可能な状態として下さい。

1. 溶接／発電機の外部の清掃を行い、汚れ・ゴミなどを取除いて下さい。
2. スパークプラグの状態を点検し、必要に応じ、清掃・交換をして下さい。(35ページ参照)
3. エンジンオイルの量を点検し、必要に応じ、補給をして下さい。(36ページ参照)
4. 〈W141のみ〉良好な状態のバッテリーを所定の位置に取付け、バッテリーケーブルのプラス線とマイナス線を接続して下さい。(20ページ参照)
5. フューエルタンクにガソリンを補給して下さい。(16ページ参照)



# 不定期に使用する場合

この溶接／発電機を不定期に使用する場合は、最低でも月1回は、次の手順に従ってテスト運転を行い、常に溶接／発電機を最良の状態に保って下さい。

1. ガソリンおよびエンジンオイルの量を点検して下さい。同時に、自然劣化による変質が生じていないかも点検して下さい。

要点：

ガソリンおよびエンジンオイルは自然劣化し、変質します。

変質したガソリンやエンジンオイルを使用すると、エンジン始動不良、力不足、損傷などの原因となりますので、次に示す期間をめやすに新しいものと交換して下さい。

ガソリン           ： 3か月ごとに入替え

エンジンオイル： 6か月ごとに入替え

2. エンジンを始動させ、定格出力内の負荷をかけて一定時間（10分間以上）運転して下さい。
3. 溶接／発電機の各部に異常がないか点検して下さい。
  - 各スイッチ類・パイロットランプなどの作動状態。
  - エンジンの運転状態・音など。
  - ガソリン・エンジンオイルのもれの有無。

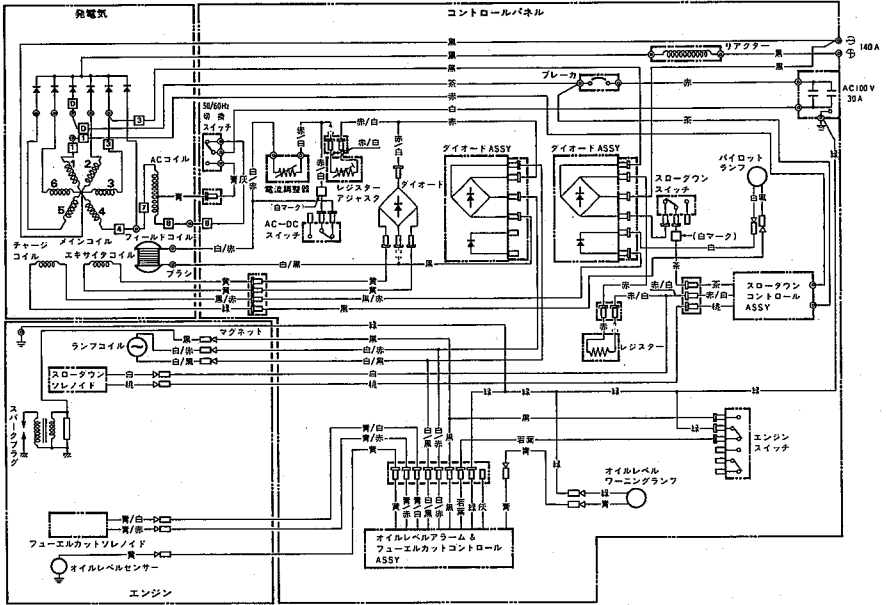
# 諸元表

## 諸元

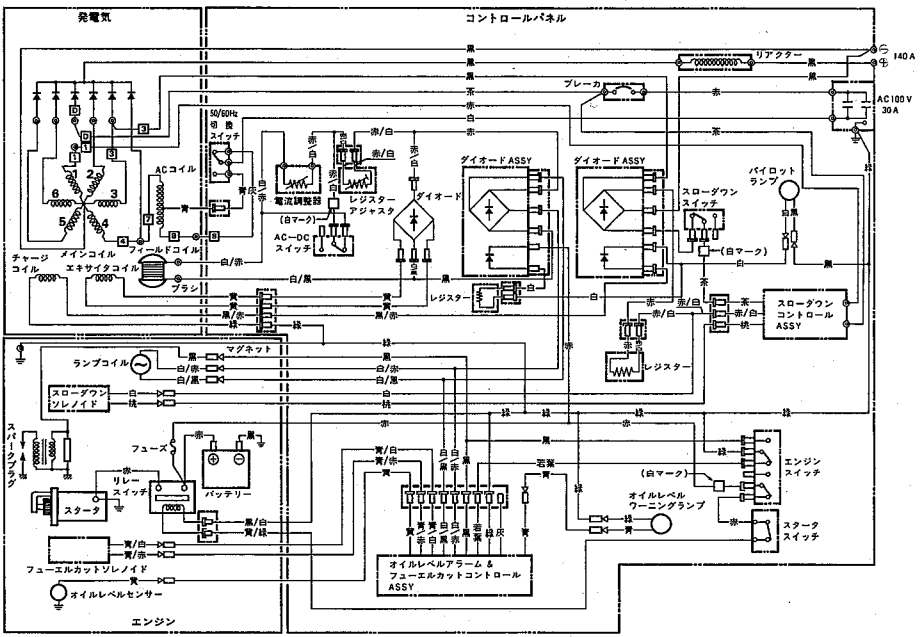
| 項目           |                        | 機種                       |        | W140   |              | W141   |        |
|--------------|------------------------|--------------------------|--------|--------|--------------|--------|--------|
| 溶接出力<br>(直流) | 定格回転数(rpm)             | 3000                     | 3600   | 3000   | 3600         | 3000   | 3600   |
|              | 電流調整範囲(A)              | 40~100                   | 50~140 | 40~100 | 50~140       | 40~100 | 50~140 |
|              | 定格電流(A)                | 120 (3600rpm時)           |        |        |              |        |        |
|              | 定格使用率(%)               | 50 (3600rpm時)            |        |        |              |        |        |
|              | 溶接能力(mm棒)              | φ2.0~φ3.2                |        |        |              |        |        |
|              | 定格電圧(V)                | 26                       |        |        |              |        |        |
|              | 励磁方式                   | 半他励磁式                    |        |        |              |        |        |
| 補助電源<br>(交流) | 定格回転数(rpm)             | 3000                     | 3600   | 3000   | 3600         | 3000   | 3600   |
|              | 定格周波数(Hz)              | 50                       | 60     | 50     | 60           | 50     | 60     |
|              | 定格出力(kVA)              | 2.5                      | 3.0    | 2.5    | 3.0          | 2.5    | 3.0    |
|              | 定格電圧(V)                | 100 (単相)                 |        |        |              |        |        |
|              | 定格電流(A)                | 25                       | 30     | 25     | 30           | 25     | 30     |
| エンジン         | エンジン形式                 | 空冷4サイクルガソリンエンジン(OHV)     |        |        |              |        |        |
|              | 総排気量(cm <sup>3</sup> ) | 272                      |        |        |              |        |        |
|              | 使用燃料                   | 自動車用ガソリン(無鉛レギュラーガソリンに限る) |        |        |              |        |        |
|              | 燃料タンク容量(ℓ)             | 15.0(赤線レベルまで)            |        |        | 9.0(赤線レベルまで) |        |        |
|              | 始動方式                   | リコイル式                    |        |        | セルモータ式       |        |        |
|              | 乾燥質量(kg)               | 87.0                     |        |        | 93.0         |        |        |
|              | 寸法(全長×全幅×全高)(mm)       | 660×600×590              |        |        | 660×600×645  |        |        |

# 配線図

<W140>



<W141>



# 全国に広がるアフターサービス網

お買い上げ商品のご相談は、最寄りのマキタ登録販売店もしくは、下記の当社営業所へお気軽にお尋ねください。

| 事業所名     | 電話番号             | 事業所名    | 電話番号             | 事業所名     | 電話番号             |
|----------|------------------|---------|------------------|----------|------------------|
| 札幌支店     | (011) (783) 8141 | 足立営業所   | (03) (3899) 5855 | 東大阪営業所   | (06) (6746) 7531 |
| 札幌営業所    | (011) (783) 8141 | 大田営業所   | (03) (3763) 7553 | 関西物流センター | (0725) (46) 6715 |
| 旭川営業所    | (0166) (29) 0960 | 江戸川営業所  | (03) (3653) 5171 | 南大阪営業所   | (0725) (46) 6611 |
| 釧路営業所    | (0154) (37) 4849 | 多摩営業所   | (042) (384) 8411 | 奈良営業所    | (0742) (61) 6484 |
| 函館営業所    | (0138) (49) 9273 | 立川営業所   | (042) (542) 1201 | 橿原営業所    | (0744) (22) 2061 |
| 苫小牧営業所   | (0144) (68) 2100 | 横浜支店    | (045) (472) 4711 | 和歌山営業所   | (073) (471) 4585 |
| 帯広営業所    | (0155) (36) 3833 | 横浜営業所   | (045) (472) 4711 | 田辺営業所    | (0739) (25) 1027 |
| 北見営業所    | (0157) (26) 9011 | 川崎営業所   | (044) (811) 6167 | 沖繩営業所    | (098) (874) 1222 |
| 仙台支店     | (022) (284) 3201 | 平塚営業所   | (0463) (54) 3914 | 兵庫支店     | (0794) (82) 7411 |
| 仙台営業所    | (022) (284) 3201 | 相模原営業所  | (042) (757) 2501 | 三木営業所    | (0794) (82) 7411 |
| 古川営業所    | (0229) (24) 0698 | 湘南営業所   | (0466) (87) 4001 | 尼崎営業所    | (06) (6437) 3660 |
| 青森営業所    | (017) (764) 4466 | 静岡支店    | (054) (281) 1555 | 神戸営業所    | (078) (672) 6121 |
| 八戸営業所    | (0178) (43) 3321 | 静岡営業所   | (054) (281) 1555 | 姫路営業所    | (079) (281) 0204 |
| 盛岡営業所    | (019) (635) 6221 | 沼津営業所   | (055) (923) 7811 | 広島支店     | (082) (293) 2231 |
| 水沢営業所    | (0197) (22) 5101 | 浜松営業所   | (053) (464) 3016 | 広島営業所    | (082) (293) 2231 |
| 郡山営業所    | (024) (932) 0218 | 甲府営業所   | (055) (276) 7212 | 福山営業所    | (084) (923) 0960 |
| いわき営業所   | (0246) (23) 6061 | 金沢支店    | (076) (249) 5701 | 三原営業所    | (0848) (64) 4850 |
| 新潟支店     | (025) (247) 5356 | 金沢営業所   | (076) (249) 5701 | 岡山営業所    | (086) (243) 4723 |
| 新潟営業所    | (025) (247) 5356 | 七尾営業所   | (0767) (52) 3533 | 宇部営業所    | (0836) (31) 4345 |
| 長岡営業所    | (0258) (30) 5530 | 富山営業所   | (076) (451) 6260 | 徳山営業所    | (0834) (21) 5583 |
| 山形営業所    | (023) (643) 5225 | 高岡営業所   | (0766) (21) 3177 | 鳥取営業所    | (0857) (28) 5761 |
| 酒田営業所    | (0234) (26) 3551 | 福井営業所   | (0776) (35) 1911 | 松江営業所    | (0852) (21) 0538 |
| 秋田営業所    | (018) (863) 5205 | 岐阜支店    | (058) (274) 1315 | 高松支店     | (087) (867) 6411 |
| 宇都宮支店    | (028) (634) 5295 | 岐阜営業所   | (058) (274) 1315 | 高松営業所    | (087) (867) 6411 |
| 宇都宮営業所   | (028) (634) 5295 | 多治見営業所  | (0572) (22) 4921 | 徳島営業所    | (088) (626) 0555 |
| 小山営業所    | (0285) (25) 5559 | 松本営業所   | (0263) (25) 4696 | 松山営業所    | (089) (951) 7666 |
| 水戸営業所    | (029) (248) 2033 | 長野営業所   | (026) (225) 1022 | 宇和島営業所   | (0895) (22) 3785 |
| 土浦営業所    | (029) (821) 6086 | 上田営業所   | (0268) (22) 6362 | 高知営業所    | (088) (884) 7811 |
| 関東物流センター | (048) (771) 3451 | 飯田営業所   | (0265) (24) 1636 | 福岡支店     | (092) (411) 9201 |
| 埼玉支店     | (048) (777) 4801 | 名古屋支店   | (052) (571) 6451 | 福岡営業所    | (092) (411) 9201 |
| さいたま営業所  | (048) (777) 4801 | 名古屋営業所  | (052) (571) 6451 | 北九州営業所   | (093) (551) 3481 |
| 川越営業所    | (049) (222) 2512 | 一宮営業所   | (0586) (75) 5382 | 飯塚営業所    | (0948) (26) 3361 |
| 熊谷営業所    | (048) (521) 4647 | 東名古屋営業所 | (0561) (73) 0072 | 久留米営業所   | (0942) (43) 2441 |
| 越谷営業所    | (0489) (76) 6155 | 知多営業所   | (0569) (48) 8470 | 佐賀営業所    | (0952) (30) 6603 |
| 前橋営業所    | (027) (232) 5575 | 岡崎営業所   | (0564) (22) 2443 | 長崎営業所    | (095) (882) 6112 |
| 高崎営業所    | (027) (365) 3688 | 豊橋営業所   | (0532) (46) 9117 | 佐世保営業所   | (0956) (33) 4991 |
| 両毛営業所    | (0276) (46) 7661 | 四日市営業所  | (059) (351) 0727 | 熊本支店     | (096) (389) 4300 |
| 千葉支店     | (043) (231) 5521 | 津営業所    | (059) (232) 2446 | 熊本営業所    | (096) (389) 4300 |
| 千葉営業所    | (043) (231) 5521 | 伊勢営業所   | (0596) (36) 3210 | 八代営業所    | (0965) (43) 1000 |
| 市川営業所    | (047) (328) 1554 | 京都支店    | (075) (621) 1135 | 大分営業所    | (097) (567) 3320 |
| 成田営業所    | (0476) (73) 8101 | 京都営業所   | (075) (621) 1135 | 宮崎営業所    | (0985) (26) 1236 |
| 木更津営業所   | (0438) (23) 2908 | 福知山営業所  | (0773) (23) 7733 | 鹿児島営業所   | (099) (267) 5234 |
| 柏営業所     | (04) (7175) 0411 | 大津営業所   | (077) (545) 5594 | 沖繩営業所    | 大阪支店の欄をご覧ください。   |
| 東京支店     | (03) (3816) 1141 | 彦根営業所   | (0749) (22) 6184 |          |                  |
| 東京営業所    | (03) (3816) 1141 | 大阪支店    | (06) (6351) 8771 |          |                  |
| 中野営業所    | (03) (3337) 8431 | 大阪営業所   | (06) (6351) 8771 |          |                  |

株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)